



令和5年1月24日（火）、山形市のパレスグランデールにおいて、山形県の食と農の魅力や価値を広く発信するとともに、食育・地産地消の重要性について県民の理解増進を図るため、「やまがた食育県民大会2023」が開催されました。

東北農政局では、「ちょうどよいバランスの食生活」の啓発ポスター展示、「令和3年度みんなの食育白書」「第4次食育推進基本計画」「デジタル食育ガイドブック」などのパンフレットや「食育ネットとうほく」「とうほく食育メールマガジン」などのチラシを配付し、食育の普及啓発を行いました。



＜東北農政局展示コーナー＞

講演「食育で伝えるSDGs」

講師：一般社団法人和食文化国民会議普及啓発部会 幹事 海老原誠治 氏

「伝える≠伝わる」「『大切』なことほど、万人が分かる言葉で伝えなければならない」として、海老原氏が実際に行う小・中学校向け出前授業用の食育プログラムを元に、平易な言葉で、食品ロス削減給食メニュー作成、期限切れが近い防災食品再利用給食、給食時に和食器を貸し出して一汁三菜の和食文化継承を図る取組などを紹介。また、世界の食料や水不足の問題、貧困問題、ウクライナ戦争などを例に、SDGsと食育との関わりについて講演を行った。



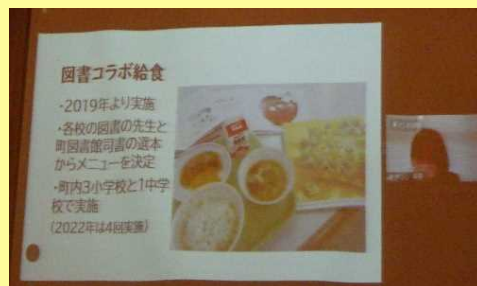
食育・地産地消実践活動紹介

自校炊飯・地元産食材で望ましい食生活

「三川町産つや姫給食・ふるさと給食」

三川町では、町内全小・中学校及び幼稚園・保育園で給食室を持ち、自校炊飯による地産地消を推進。地元農家から米をはじめとする農産物を調達し、「美味しいお米給食」「ふるさと給食」「地産地消ウィーク」を実施。献立表は町ホームページに掲載し、町民全体での地産地消、地域農業の活性化につながる取組を行っているほか、選定した図書からメニューを決め、合わせて図書の紹介を行う「図書コラボ給食」など、ユニークな取組も実施している。

（三川町立押切小学校 栄養教諭 齊藤めぐみ 氏）



ふるさと胎内の恵みに感謝！～米粉で育む郷土愛～

日本初の微細米粉専用製粉工場が竣工された「米粉発祥の地」である新潟県胎内市では、「米粉条例」を制定し、高品質な微細米粉を使用した料理やスイーツの開発・販売に取り組むなど、市民を挙げて米粉の普及促進を行っている。

また、月に6～7回の米粉給食（米粉カレー、米粉めんなど）を実施しており、子どもたちは米粉を市の特産品として誇りに感じている。

（新潟県胎内市教育委員会学校教育課 山沢正仁 氏、伊藤 梢氏）

